

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和4年10月31日 ※1  
(前回公表年月日: 令和4年4月1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																				
松山デザイナー専門学校	昭和23年4月1日	室 利幸	〒 790-0063 (住所) 愛媛県松山市辻町1-33 (電話) 089-925-6188																																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																				
準学校法人 松山ビジネスカレッジ	昭和41年12月22日	河原 成紀	〒 790-0001 (住所) 愛媛県松山市一番町1丁目4-1 (電話) 089-925-6188																																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																			
服飾・家政	服飾家政専門課程	ファッションビューティ学科(スタイリスト専攻)	平成23年度文部科学 大臣認定	-																																			
学科の目的	学校教育法に基づき 服飾家政に関する専門教育、並びに 高度情報化社会に対応した一般教養としての技術習得に関する専門教育を行うことを 目的とする。																																						
認定年月日	平成4年3月25日																																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																
2年	昼間	1710	480	0	1350	0	0																																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																		
110人の内数	7人	0人	3人	14人の内数	17人の内数																																		
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:																																			
長期休み	■学年始: 4月1日～4月9日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月25日～1月7日 ■学年末: 3月21日～3月31日		卒業・進級 条件	卒業要件:																																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期的担任による面談を実施し、継続して個別指導を行っている。学習内容や生活面等相談しやすい環境作りを行い、学生生活を総合的にサポートする。		課外活動	■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 ボランティア活動																																			
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) (株)アルファベットバステル他		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																																			
	■就職指導内容 校内にキャリアセンターを設置し、専任のキャリアコンサルタントが個別支援を行っている。また、「キャリア支援」の授業では、主体的に職業生活を送れるようキャリア形成の必要性を理解し、社会人基礎力の習得や、就職活動における一連の活動(マナー、履歴書の書き方、面接指導等)についてもフォローする。			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アロマセラピー検定 2級</td> <td>③</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>ネイリスト検定2級</td> <td>③</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>アロマセラピー検定 1級</td> <td>③</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	アロマセラピー検定 2級	③	3	3	ネイリスト検定2級	③	2	1	アロマセラピー検定 1級	③	2	2																
	資格・検定名	種別		受験者数	合格者数																																		
	アロマセラピー検定 2級	③		3	3																																		
ネイリスト検定2級	③	2	1																																				
アロマセラピー検定 1級	③	2	2																																				
■卒業生数 5 人 ■就職希望者数 4 人 ■就職者数 4 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 80 %		<p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p>																																					
■その他 ・進学者数: 1人		■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																																					
中途退学 の現状	■中途退学者 1名 令和3年4月1日時点において、在学者7名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者6名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の原因 体調不良		■中退率 14 %																																				
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ・家族支援制度(納付金一部免除): 兄弟姉妹、保護者が学園グループ校の在籍者もしくは卒業生 ・再入学支援制度(入学金免除): 入学者本人が学園グループ校の卒業生または卒業見込者 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月:		無																																				
当該学科の ホームページ URL	https://mfw.mbc1946.ac.jp/fashionbusiness/																																						

(田忌争場)

2. 就職寺の状況(※2)

3. 王な字修成果(※3)

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項や、各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項、実務に必要な最新の知識・技術・技能に関する事項、その他教育課程の編成に関連する事項等について、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成に活かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、現状の教育課程の編成について、企業・業界団体等との連携により、企業等から必要となる最新の知識・技術・技能等について意見を求め、その意見を学内においてカリキュラム編成に十分活かす場として位置づけている。具体的には、委員より示された教育課程編成に係る意見を基に、学科長が主となり、教育課程やシラバスの改善、授業内容の充実等、素案が作成され、教務会議(月例会議)にて審議を行い、次年度の教育課程等に改善内容が反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
村上 幸司	愛媛県縫製品工業組合 理事長	令和3年10月27日～令和4年3月31日(5カ月)	①
武智 弘晃	ディーゼルジャパン(株)松山店長	令和3年10月28日～令和4年3月31日(5カ月)	③
松岡 由紀子	学校法人松山ビジネスカレッジ 常務理事		—
室 利幸	専門学校松山ビジネスカレッジクリエイティブ校 校長		—
岡田 善雄	学校法人松山ビジネスカレッジ 管理本部長		—
重信 克也	学校法人松山ビジネスカレッジ 管理本部次長		—
大野 幸美	専門学校松山ビジネスカレッジクリエイティブ校 ファッションビューティ学科 学科長		—
神田 瑞穂	専門学校松山ビジネスカレッジクリエイティブ校 ファッションビューティ学科専任教員		—
智内 菜奈子	専門学校松山ビジネスカレッジクリエイティブ校 ファッションビューティ学科専任教員		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(11月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年1月18日 15:00～16:00

第2回 令和4年3月29日 15:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

大手アパレル企業は高度な人材を求めており、学生のスキル・技術をどう高めていくかが課題であるという意見を踏まえ、ファッション系の実践的教育については、愛媛県内のアパレル企業の工場で、アパレルCADを使用したパターンやグレーディングでの企業連携(工場見学、インターンシップ等)を行うこととした。そのための企業との交渉や紹介は愛媛県縫製品工業組合に協力いただいている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

現場で活かせる知識や技術の習得と共に様々なシチュエーションに対応できる応用力を身につけることを目的とし、より職業を意識した授業展開を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

展示会やファッションショーなどの作品発表の機会では衣装制作者、モデル、ヘアメイク、ネイルのそれぞれの担当者がコミュニケーションをとりながらバランスよく成型された作品となるよう制作や施術を行うとともに、トータルにもものを見る目を養いチームで仕事をする実習とする。成績評価については、各教科の担当者が評価項目と配点を設定し行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ヘアメイク実技・理論 I	ブライダル・広告撮影・CMなど様々なジャンルのヘアメイクを担当する美容室『track time』と連携し、基礎を学びながら、自分らしい作品を作り上げられるように様々なことに挑戦できる学習にする。	美容室『track time』
ヘアメイク実技・理論 II	ブライダル・広告撮影・CMなど様々なジャンルのヘアメイクを担当する美容室『track time』と連携し、基礎を学びながら、自分らしい作品を作り上げられるように様々なことに挑戦できる学習にする。	美容室『track time』
ネイル実習 I	『Nail&Aroma リヤド』と連携し、ネイルに関する基礎的な理論と技術を身に付け、JNECネイリスト技能検定試験3級の取得を目指す。	Nail&Aroma リヤド
ネイル実習 II	『Nail&Aroma リヤド』と連携し、ネイルに関する基礎的な理論と技術を身に付け、JNECネイリスト技能検定試験3級の取得を目指す。	Nail&Aroma リヤド
ショーヘアメイク実技・理論 I	ブライダル・広告撮影・CMなど様々なジャンルのヘアメイクを担当する美容室『track time』と連携し、基礎を復習しつつ自分らしい作品を作る。	美容室『track time』

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

当法人の教職員研修規程に基づき、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために必要な知識、技能等の習得、及びその他職務遂行に必要な教職員の創造力、判断力、実行力等の総合的な能力の向上を図ることを目的として研修等を実施する。研修内容は、専攻分野における実務に関するもの及び授業及び学生に対する指導力の習得・向上に関するもので、(1)企業等と連携した各種研修・セミナーの開催、(2)企業等からの講師の招聘、(3)外部団体主催の研修への参加、(4)その他実務、指導力の習得・向上に関するものを推進する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「3Dモデリングが巻き起こす革命が志望者増、就職率上昇を生み出す」	連携企業等:	一般社団法人ファッションデザインエンジニアリング協会
期間:	令和3年9月30日(木)	対象:	教育機関、学校関係者
内容	第1部:ファッションビジネスに押し寄せるDXのカギとなる「3Dモデリング」それにより企画の短縮化、サンプルコストの削減、展示会の変容、ECにおける”ささげ作業”の削減による職場や働き方の波及効果。第2部:カリキュラムに先行導入した学校による導入までの経緯と課題。		
研修名:	美容部員の仕事と化粧品業界について	連携企業等:	株式会社アイスタイルキャリア
期間:	令和3年10月25日(月)	対象:	教員
内容	国内化粧品業界の基礎知識、加速するデジタルシフト、外資と国内での美容部員の違い、これからの美容部員に求められること等		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「学生の対人関係から見た心理的特徴と支援の検討」	連携企業等:	一般社団法人愛媛専修学校各種学校連合会
期間:	令和3年8月26日(木)	対象:	専修学校教職員
内容	学生の対人関係から見た心理的特徴と支援について、①学生の発達段階を捉える、②心理的特徴と対人関係、③学生への支援計画(問題と支援の着目ポイント)、④保護者へのアプローチ等を学ぶことにより指導力を向上させる。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	2023年春夏トレンドセミナー	連携企業等:	WWDJAPAN
期間:	令和4年11月15日(火)	対象:	WWD購読者他
内容	海外コレクションの最新情報から国内マーケット展望、リアルトレンドの実態について		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「専門学校経営における諸問題の解決のヒント」	連携企業等:	一般社団法人愛媛専修学校各種学校連合会
期間:	令和4年8月26日(金)	対象:	専修学校教職員
内容	教えるから学ぶへの変更、先生が教える授業から、学生が学ぶ授業、学習者中心の学ぶへのパラダイムシフト。これからの教育のあり方について特に重視すべきことは①十分な知識・技能、②自ら解を見出していく思考力・判断力・表現力等の能力、③主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度等		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、関連企業や保護者、地域住民などの学校関係者等が、自己評価の結果を評価すること等を通じて、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校・家庭・地域が学校の現状と課題について共通理解を深めて相互の連携を促し、学校運営の改善への協力を促進することを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1. 学校の理念・目的・育人人材像は定められているか。 2. 学校における職業教育の特色は何か 3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか 4. 学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか
(2) 学校運営	1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか 2. 運営方針に沿った事業計画が策定されているか 3. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか 4. 人事、給与に関する規程等は整備されているか 5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか 6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか 7. 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか 8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 2. 教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか 3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか 4. 授業評価の実施・評価体制はあるか 5. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか 6. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか 7. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 8. 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか
(4) 学修成果	1. 就職率の向上が図られているか 2. 資格取得率の向上が図られているか 3. 退学率の低減が図られているか 4. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか 5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか 2. 学生相談に関する体制は整備されているか 3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか 4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか 6. 学生の生活環境への支援は行われているか 7. 保護者と適切に連携しているか 8. 卒業生への支援体制はあるか 9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか 10. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	1. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか 2. 学内外、実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 3. 防災に対する体制は整備されているか

(7) 学生の受入れ募集	1. 学生募集活動は、適正に行われているか 2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 3. 学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	1. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 3. 財務について会計監査が適正に行われているか 4. 財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	1. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか 4. 自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 3. 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者との意見交換により、自己評価の客観性、透明性が高まり、学校運営の改善に継続的に取り組んでいる。特に今年度はコロナ禍による学生への影響が懸念されており、臨床実習や臨地実習等制限されている取り組みもあるため、評価委員の意見を踏まえ、学生の精神的サポートや学習面でのフォローも含め、少しでも不安が軽減されるよう、教員が連携して学生指導に取り組んでいる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
北岡 尚子	株式会社アトリエ き・な・こ 代表取締役	令和4年2月1日～令和4年3月31日(2カ月)	企業等委員
平岡 宏幸	株式会社FAKIE\STANCE 代表取締役	令和4年2月9日～令和4年3月31日(1カ月)	企業等委員
増田 陽典	愛媛信用金庫 地域事業振興課長	令和4年2月17日～令和4年3月31日(1カ月)	企業等委員
水沼 陽子	松山女学院専門学校 卒業生	令和4年2月17日～令和4年3月31日(1カ月)	卒業生
山内 真由美	専門学校松山ビジネスカレッジクリエイティブ校 在校生保護者	令和4年2月17日～令和4年3月31日(2カ月)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: [https://mbc1946.ac.jp/wp-content/themes/sela/pdf/r3/学校関係者評価報告書\\_松山ビジネス](https://mbc1946.ac.jp/wp-content/themes/sela/pdf/r3/学校関係者評価報告書_松山ビジネス)  
公表時期: 令和4年10月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業・業界団体等より、歯科業界の動向や求められる知識・技術等について情報提供していただき意見交換を行う中で、カリキュラムの見直しや、教育方法や授業内容の改善に継続的に取り組むことを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要(所在地、連絡先、沿革、教育理念等)
(2)各学科等の教育	各学科等の教育(教育内容、資格取得、カリキュラム、サポート体制等)
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育の取り組み、就職サポート体制
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動、教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金情報、各種支援制度
(8)学校の財務	財務(収支計算書、貸借対照表、財産目録、監事監査報告書)
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://mbc1946.ac.jp/info-out>

公表時期: 令和4年10月31日



授業科目等の概要

服飾家政専門課程 ファッションビジネス学科 ショップマスターコース 令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			色彩学Ⅰ	色彩に関する基本的な理論を網羅するとともに、必要な箇所ではファッション写真を具体的に例示しながら、わかりやすく学ぶ。	1前	30	2	○			○	○		
2	○			色彩学Ⅱ	商品企画やデザイン制作、接客において複数提案できる色彩スキルを身につける。	1後	30	2	○			○	○		
3	○			アイテム・アパレル素材論	アパレル製品のアイテムと主な素材である布地に関する基礎知識の習得。アイテム名称、素材の扱い方、洗濯表記を学び、商品開発や接客に関連させる。	1前	30	2	○			○		○	
4	○			ファッション販売理論Ⅰ	専門的な知識・技術・情報を提供し、お店のコンセプトに基づく商品のコーディネートを含め、適切に商品を奨め、販売のできる「販売スタッフ」の人材育成。	1前	30	2	○			○	○		
5	○			ファッション販売理論Ⅱ	専門的な知識・技術・情報を提供し、お店のコンセプトに基づく商品のコーディネートを含め、適切に商品を奨め、販売のできる「販売スタッフ」の人材育成。	1後	30	2	○			○	○		
6	○			ファッション販売実技Ⅰ	店舗スタッフとして必要な知識、技術の習得。	1前	30	1			○	○			○
7	○			ファッション販売実技Ⅱ	店舗スタッフとして必要な知識、技術の習得。	1後	30	1			○	○			○
8	○			ファッションドローイング	服のデザイン構造を表現できるように、人体のプロポーションを基礎から学び、それぞれのオリジナルデザインスタイルを表現。	1前	30	1			○	○			○
9	○			西洋服飾史	日本・西洋の服飾の歴史や現代モードなどの服飾文化を通して、流行の変遷やトレンドを読み解く力を身につける。	1前	30	2	○			○	○		
10	○			デジタル演習Ⅰ	業種や職種を問わず、多くの職場で使用されているWord・Excel・PowerPointの基本操作を学習する。	1前	30	1			○	○			○
11	○			デジタル演習Ⅱ	デザイン業務で必要不可欠なソフトで、Adobe IllustratorとPhotoshopの役割と基本操作を実践的な作業を通して学び、データ作成時のルールと知識を身につける。	1後	30	1			○	○			○
12	○			カメラ演習Ⅰ	撮影に関する基礎知識とカメラ技術について学び、ファッションと写真の関わり方を理解する。また、ファッション業界に関わるSNSの効果的な写真の活用法を実践していく。	1前	60	2			○	○			○

13	○		カメラ演習Ⅱ	撮影に関するカメラ技術と感性とファッションと写真の関わり方を理解する。ファッション業界で通じる被写体の捉え方など多角的な撮影テクニックを学ぶ。	1後	30	1			○	○			○
14	○		業界研究	第一線で活躍されている講師による特別授業。専門学校での授業が実社会でどのように結びついているのかなど、知識だけではなく多方面から取り組む授業を実施。	1後	60	4	○			○			○
15	○		オンライン販売	大手百貨店やアパレル業界で集客販売促進の手法として今までの接客方法とは違う観点的接客方法を知り、お客様とのつながり方やアピール方法を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○
16	○		ファッション業界論Ⅰ	オンラインを活用し、ファッションビジネス業界の動向を知る。また、オンデマンド配信であれば、動画を繰り返し見たり、一時停止したりすることが可能。	1後	30	2	○			○			○
17	○		ショップマスターⅠ	ショップマスター（店長）をはじめ、売り場で販売に携わるスタッフのショップ運営の基本を理解する。	1前	30	2	○			○			○
18	○		ショップマスターⅡ	マップや、ショップ見学を通し、実際の現場の構成を把握し、リサーチ力と自分のプランを創り出す。	1後	30	2	○			○			○
19	○		ファッションビジネスⅠ	アパレル業界の構造・流通を総合的に理解し基礎能力を修得する。ファッション産業の構造・マーケティング・商品知識・計数管理など、必要な情報を理解する。	1前	60	4	○			○			○
20	○		ファッションビジネスⅡ	アパレル業界の構造・流通を総合的に理解し基礎能力を修得する。ファッション産業の構造・マーケティング・商品知識・計数管理など、必要な情報を理解する。	1後	60	4	○			○			○
21	○		マーケティング	ファッションブランドを立ち上げることを想定し、商品企画に必要なマーケティングを習得し、企画から販売までの総合理解と商品を販売展開する知識を習得する。	1後	30	2	○			○			○
22	○		サービス接遇	サービス業務に対する心構え、対人心理の理解、応対の技術、口のきき方、態度・振舞いなど、サービスに対する考え方や行動の型などを学ぶ。	1前	30	2	○			○			○
23	○		ネットビジネスⅠ	ネット上で公開されているWebページを検証し、そのデザインを選択した意図や技術的な進歩がデザインに与える影響など、背景にある要因を読み取るための手法を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○
24	○		ネットビジネスⅡ	ターゲット層をWebサイトに誘導するために効果的なキーワードを選定、また検索エンジンの検索結果上位に表示させるための記事の書き方などを学習する。	1後	30	2	○			○			○
25		○	ネイル実技・理論Ⅰ	ネイルに関する基礎的な理論と技術を身に付け、JNECネイリスト技能検定試験3級、JNAジェルネイル技能検定試験初級の取得を目指す。	1前	60	2			○	○			○
26		○	ネイル実技・理論Ⅱ	プロレベルのネイル理論と技術を身に付け、JNECネイリスト技能検定試験2級の取得を目指す。	1後	60	2			○	○			○
27		○	ヘアメイク実技・理論Ⅰ	基礎を学びながら、自分らしい作品を作り上げられるように様々なことに挑戦できる学習にする。	1前	60	2			○	○			○

28		○	ヘアメイク実技・理論Ⅱ	基礎を学びながら、自分らしい作品を作り上げられるように様々なことに挑戦できる学習にする。	1後	60	2			○	○			○	○
29	○		ファッション業界論Ⅱ	オンラインを活用し、ファッションビジネス業界の動向を知る。また、オンデマンド配信であれば、動画を繰り返し見たり、一時停止したりすることが可能。	2前	30	2	○			○			○	
30	○		色彩学Ⅲ	色彩に関する基本的な理論を網羅するとともに、必要な箇所ではファッション写真を具体的に例示しながら、わかりやすく学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
31	○		色彩学Ⅳ	色彩に関する基本的な理論を網羅するとともに、必要な箇所ではファッション写真を具体的に例示しながら、わかりやすく学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
32	○		ファッション販売理論Ⅲ	専門的な知識・技術・情報を提供し、お店のコンセプトに基づく商品のコーディネートを含め、適切に商品を奨め、販売のできる「販売スタッフ」の人材育成。	2前	30	2	○			○			○	
33	○		ファッション販売実技Ⅲ	店舗スタッフとして必要な知識、技術の習得。	2前	30	1			○	○				○
34	○		ファッション販売実技Ⅳ	接客方法応用編、購買心理を理解したロールプレイングを実践し、アプローチ術を増やす接客方法応用編。	2後	30	1			○	○				○
35	○		英会話Ⅰ	アパレル販売に必要な基本フレーズの習得、接客英会話、商品案内。	2前	30	2	○			○				○
36	○		英会話Ⅱ	バイイング英会話、交渉フレーズ。	2後	30	2	○			○				○
37	○		VMDⅠ	商品のディスプレイ方法、リアル店舗だけではなくバーチャル店舗においても重要であり、オムニチャネルに対応するVMD。	2前	30	2	○			○			○	
38	○		VMDⅡ	商品のディスプレイ方法、リアル店舗だけではなくバーチャル店舗においても重要であり、オムニチャネルに対応するVMD。	2後	30	2	○			○			○	
39	○		デジタル演習Ⅲ	Illustrator、Photoshopを使ってマップ作成。	2前	30	1			○	○				○
40	○		デジタル演習Ⅳ	動画編集ソフトを使い、カット・テロップ・効果音など編集スキルを学ぶ。	2後	30	1			○	○				○
41	○		ファッションプロデュースⅠ	依頼内容やテーマの理解から、イベント運営や企画に沿った進行管理・キャストイング・スタッフ管理・交渉などを学ぶ。	2前	30	1			○	○				○
42	○		ファッションプロデュースⅡ	ルックブック企画から発行。	2後	30	1			○	○				○

43	○		ショッピングマスターⅢ	ポップアップストアの企画・展開・バイイング準備。	2前	60	2			○	○	○		
44	○		ショッピングマスターⅣ	ポップアップストアの展開・ディスプレイ・バイイング。	2後	60	2			○	○	○		
45	○		ファッションビジネスⅢ	ファッションビジネス知識における特性・生活と消費・産業構造・マーケティング・MD・生産と物流、ファッションビジネス検定2級対策。	2前	60	4	○		○	○			
46	○		ファッションビジネスⅣ	ファッション造形知識における文化・コーディネート・商品知識・デザイン・エンジニアリング、ファッションビジネス検定2級対策。	2後	30	2	○		○	○			
47	○		ブランド企画Ⅰ	オリジナルブランドの展開、リサーチを元に競合他社との差別化を図り、自社をブランディングする。	2前	30	2	○		○			○	
48	○		ブランド企画Ⅱ	オリジナルブランドの展開・企画書作成。	2後	30	1			○	○			○
49	○		ネットビジネスⅢ	ネットビジネスの運営、Webサイトを扱っていく上で必要な操作方法を学ぶ。	2前	30	2	○		○				○
50	○		ネットビジネスⅣ	ネットビジネスの運営、ビジネスの企画立案を学ぶ。	2後	30	2	○		○				○
51	○		プレス演習Ⅰ	売上につなげる広報活動の実習、情報発信、媒体用記事作成。	2前	30	1			○	○			○
52	○		プレス演習Ⅱ	展示会やイベント企画、宣伝。	2後	30	1			○	○			○
53	○		卒業研究	2年間の成果物発表、ポップアップストア、実施検証した事柄について各自の発表のための準備実働時間。	2後	60	2			○	○		○	
54		○	研修	海外買い付け、バイイング研修。	2後	30	1			○		○	○	
55		○	韓国語	バイイング韓国語。	2前	30	2	○		○				○
合計					55	科目	2,010 単位時間(102単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 全ての科目について成績評価で合格（60点以上）したものについて、ディプロマポリシーに基づき教務委員会の議を経て卒業を認める。		1学年の学期区分	2期
履修方法： 必修科目については全科目を履修する。		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

服飾家政専門課程 ファッションビジネス学科 スタイリストコース 令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
								講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択 必修	自由 選択													
1	○		色彩学Ⅰ	色彩に関する基本的な理論を網羅するとともに、必要な箇所ではファッション写真を具体的に例示しながら、わかりやすく学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
2	○		色彩学Ⅱ	商品企画やデザイン制作、接客において複数提案できる色彩スキルを身につける。	1後	30	2	○			○		○		
3	○		アイテム・アパレル素材論	アパレル製品のアイテムと主な素材である布地に関する基礎知識の習得。アイテム名称、素材の扱い方、洗濯表記を学び、商品開発や接客に関連させる	1前	30	2	○			○			○	
4	○		ファッション販売理論Ⅰ	専門的な知識・技術・情報を提供し、お店のコンセプトに基づく商品のコーディネートを含め、適切に商品を奨め、販売のできる「販売スタッフ」の人材育成。	1前	30	2	○			○			○	
5	○		ファッション販売理論Ⅱ	専門的な知識・技術・情報を提供し、お店のコンセプトに基づく商品のコーディネートを含め、適切に商品を奨め、販売のできる「販売スタッフ」の人材育成。	1後	30	2	○			○			○	
6	○		ファッション販売実技Ⅰ	店舗スタッフとして必要な知識、技術の習得。	1前	30	1			○	○			○	
7	○		ファッション販売実技Ⅱ	店舗スタッフとして必要な知識、技術の習得。	1後	30	1			○	○			○	
8	○		ファッションドローイング	服のデザイン構造を表現できるように、人体のプロポーションを基礎から学び、それぞれのオリジナルデザインスタイルを表現。	1前	30	1			○	○			○	
9	○		西洋服飾史	日本・西洋の服飾の歴史や現代モードなどの服飾文化を通して、流行の変遷やトレンドを読み解く力を身につける。	1前	30	2	○			○			○	
10	○		デジタル演習Ⅰ	業種や職種を問わず、多くの職場で使用されているWord・Excel・PowerPointの基本操作を学習する。	1前	30	1			○	○			○	
11	○		デジタル演習Ⅱ	デザイン業務で必要不可欠なソフトでAdobe IllustratorとPhotoshopの役割と基本操作を実践的な作業を通して学び、データ作成時のルールと知識を身につける。	1後	30	1			○	○			○	
12	○		カメラ演習Ⅰ	撮影に関する基礎知識とカメラ技術について学び、ファッションと写真の関わり方を理解する。また、ファッション業界に関わるSNSの効果的な写真の活用法を実践していく。	1前	60	2			○	○			○	



28	○		ファッション販売理論Ⅲ	ファッション販売知識、ファッション販売技術、商品知識、売り場作り、マーケティング、店舗運営管理、ファッション販売検定2級。	2前	30	2	○			○		○		
29	○		ファッション販売実技Ⅲ	販売員としての立ち振る舞い。	2前	30	1				○	○			○
30	○		ファッション販売実技Ⅳ	接客方法応用編、購買心理を理解したロールプレイングを実践し、アプローチ術を増やす接客方法応用編。	2後	30	1				○	○			○
31	○		英会話Ⅰ	アパレル販売に必要な基本フレーズの習得、接客英会話、商品案内。	2前	30	2	○			○				○
32	○		英会話Ⅱ	バイイング英会話、交渉フレーズ。	2後	30	2	○			○				○
33	○		VMDⅠ	商品のディスプレイ方法、リアル店舗だけではなくバーチャル店舗においても重要であり、オムニチャネルに対応するVMD。	2前	30	2	○			○				○
34	○		VMDⅡ	商品のディスプレイ方法、リアル店舗だけではなくバーチャル店舗においても重要であり、オムニチャネルに対応するVMD。	2後	30	2	○			○				○
35	○		デジタル演習Ⅲ	Illustrator、Photoshopを使ってマップ作成。	2前	30	1				○	○			○
36	○		デジタル演習Ⅳ	動画編集ソフトを使い、カット・テロップ・効果音など編集スキルを学ぶ。	2後	30	1				○	○			○
37	○		ファッションプロデュースⅠ	依頼内容やテーマの理解から、イベント運営や企画に沿った進行管理・キャスティング・スタッフ管理・交渉などを学ぶ。	2前	30	1				○	○			○
38	○		ファッションプロデュースⅡ	ルックブック企画から発行。	2後	30	1				○	○			○
39	○		スタイリスト演習Ⅲ	コーディネート実習（素材・色・アイテム）、プレゼン。	2前	60	2				○	○			○
40	○		スタイリスト演習Ⅳ	コーディネート実習（素材・色・アイテム）、スタイリングショー。	2後	60	2				○	○			○
41	○		スタイリスト商品制作Ⅱ	ファッションアイテムの制作（シャツ・パンツ）。	2前	60	2				○	○			○
42	○		スタイリスト商品制作Ⅲ	ファッションアイテムの制作（バイイング商品・ワンピース）。	2後	60	2				○	○			○

43	○		ヘアメイク実技・理論Ⅲ	テーマ別ヘアメイク・フォトコンテスト。	2前	60	2			○	○			○
44	○		ヘアメイク実技・理論Ⅳ	ショーや撮影など衣装に合わせたヘアメイクの提案。	2後	30	1			○	○			○
45	○		卒業研究	2年間の成果発表、スタイリングショー、実施検証した事柄について各自の発表のための準備実働時間。	2後	60	2			○	○			○
46		○	研修	海外買い付け、バイイング研修。	2後	30	1			○		○	○	
47		○	韓国語	バイイング韓国語。	2前	30	2	○			○			○
合計						47	科目			1,770 単位時間 (79単位)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	全ての科目について成績評価で合格（60点以上）したものについて、ディプロマポリシーに基づき教務委員会の議を経て卒業を認める。	1学年の学期区分	2期
履修方法：	必修科目については全科目を履修する。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。